

# 春来たる、桜花爛漫

# はなさかさかす

社会福祉法人報徳会  
広報紙（季刊）  
令和8年春号  
発行責任者  
理事長 内田善久



季節は廻り、また春が来る。はなさかの桜たちは、東日本震災をくぐり抜けた東北の生まれです。人間ならば高校を卒業し、旅立ちの春を迎えるころ。年ごとに大きくなる桜の樹に生命の力強さを実感します。夜には艶やかな姿を近隣の方にお楽しみ頂いています。

## 贈る言葉 「今を変えれば、過去は変えられる」

社会福祉法人報徳会理事 岩壁 清吉

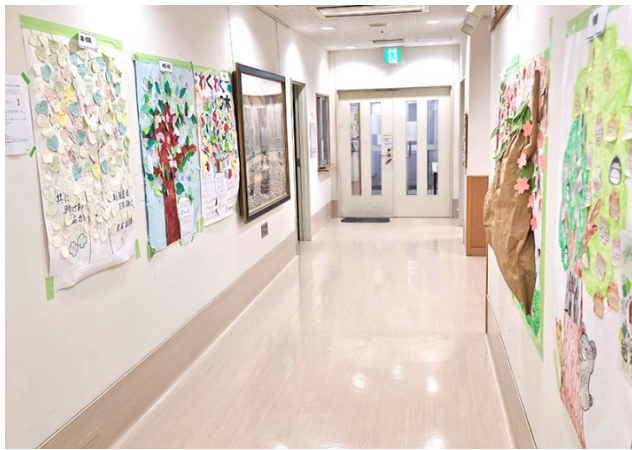


今年も井上陽水が唱う『桜三月散歩道』をBGMに書庫の整理を行う。「抜書ノート」78冊。読み耽る中、ドラマの一節。坂本金八が教え子に説く「今を変えれば、過去は変えられる」という箴言。自戒と「贈る言葉」の意を込め『PTA会報』で伝えたのは21年前。その思いを覚えてくれたそれぞれの高校生に感謝で想い出す。

《未だ田圃が残る坂を登った丘の上に立つ校舎の一年目は、何でも有りの男子クラス。初めて入った教室で「なんだお前もこの学校に入ったのか。一緒に卓球部に入ろう」と言われ、市の大会で立ち直れない位の負け方をした相手と同じクラスのうえ、部活動もと思ったら逃げるしかなく、それならばと思っただけは忘れたけれど、中学の先輩が含み笑いで誘ってくれた文芸部に入った。すごい美人の一年生がいたから。自慢じゃないけど、文芸書など高校二年まで読んだことなどなかった。小学校五年の誕生日に天覧ホームランを打ってくれた長嶋茂雄に憧れ、ボールを追うことばかりだった僕のコペルニクスの転回であったのだ。ところが二年になると「サッカー部をつくろう」と言い出した友人Sにつられてサッカー部を創設、部員となってしまった。「お前は口が巧いから宣伝部担当だ」と言われたのが話の落ちであったのかも知れない。だが部活の遍歴は終わらない。「文芸部に演劇班をつくるのだけど男の人が必要なの」と男女クラスになった同級生のYの言葉に唆され、逆戻りの再入部。脚本と演出を担当する先輩に「先輩の演技何とかありませんか」と言われ続けて日が暮れた。哲学少年を自称する僕は、それらしく振舞うべく三年の10月まで勉強を一切というほどしなかった。数学は黒板の前で立ったまま時間が過ぎ、英語ときては、太平洋の彼方から遠く遠く聞こえて来るようであった——と、ここまで書いてきて僕は思う。随分いい加減であったけれど、その時点その時点での今を生きること、僕の知りうる力で考えていたのだと自己弁護してみよう。25年間、教卓から見渡す君たちに僕自身を見つけることがある。教えることで教わっている僕がいる。幸せだと思う。》（「秘蔵」96・5）

はなさか連載コラム ②⑥

# お花見2026



職員思い遣りとコミュニケーションを育みより良い介護を目指して互いに感謝の一言×エモを貼る「ありがとうの木」。各部署の結果を持ち寄って職員投票を行いました。年間アワード最優秀賞は、福寿・豊年ユニットとなりました。



## 看護師さん大募集

看護師さんを大募集しています。暮らしに寄り添う看護。短時間もOK!まずはご連絡下さい。お待ちしております!

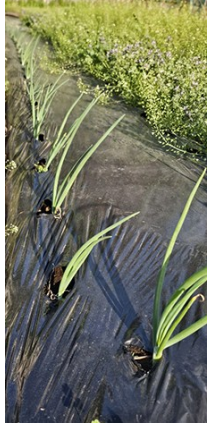


詳細はこちら

3階ユニットで活躍している  
ミャンマー出身介護職員ナン・ネさん。ご利用者から人気です



## スタッフ紹介



玉葱が元気に生育中。暖かくなってきたこれからクンクン育ちます。五月には収穫です。

## はなさか農園 2026